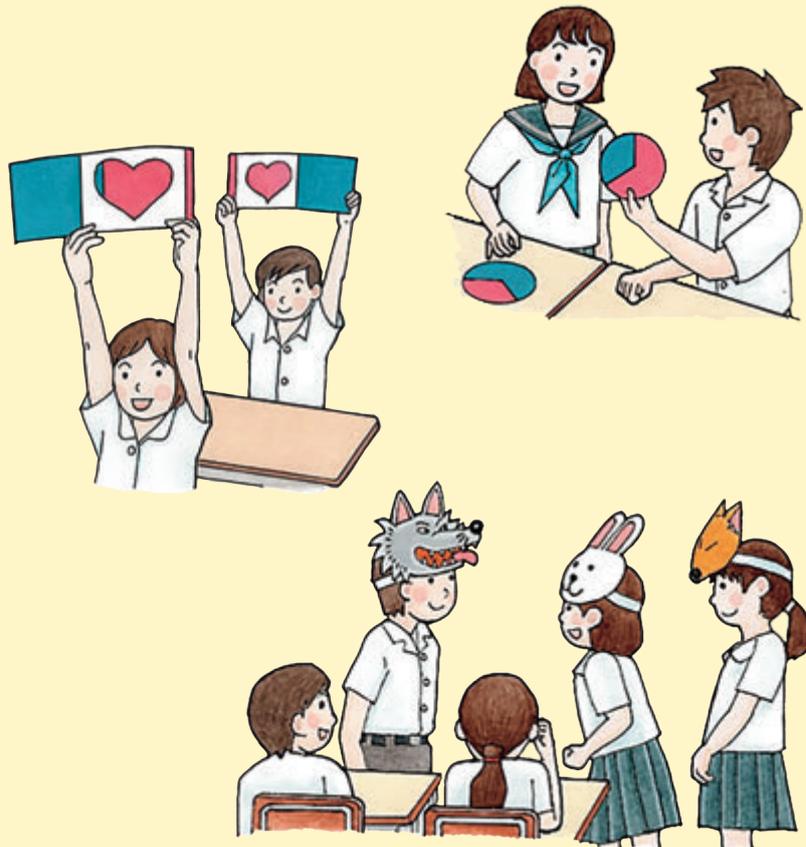


「独立行政法人教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター支援事業」

「SP3 社会の変化と子供の心 道徳教育の指導」

道徳ラボ2020

道徳科授業における教具作成支援シート集



四国地域教職アライアンス香川大学センター
香川大学教職大学院

令和3年3月

はじめに

植田 和也

今年度は、コロナ禍で様々な道徳教育関係の研修が中止や制限下の中で縮小という形で実施されており、本事業の「独立行政法人教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター支援事業、SP3 社会の変化と子供の心 道徳教育の指導」による道徳ラボ研修会も6月に予定していましたが、実施できず開催そのものを断念することを検討しました。

しかし、平成28年度より継続してきた道徳ラボに参加していただいた多くの皆様から、問い合わせの連絡や期待の声をいただき、令和2年度もオンライン中心ではありますが、香川大学からの発信で3回（10月、11月、2月）実施することができました。

10月3日に実施した道徳ラボでは、テーマを「若手教員の授業力向上」で実施し、高松大学の佐々木啓祐先生より「道徳科の学習活動を支える教具づくり」として、手作りお面づくりのコツ、どこから見ても色の割合が同じに見える心情円盤、心の色づくりなど、道徳科で活用できる教具の工夫について、分かりやすく講演していただきました。また、山本健太先生の実践の紹介でも様々な教具の工夫や活用について、授業場面にもとづいて示していただきました。講演後も教具の作製図や当日のPPT資料への問い合わせを複数の参加者からいただき、開催してよかったと嬉しい限りでした。

11月、2月の道徳ラボでは、四国各県の実践者や研究者の皆様の協力を得て、各県の取組や今後の実践への期待も含めて具体的に議論することができました。特に、2月はICTの活用に関して、子どもたち一人一人が端末を持つ中での道徳科の授業における活動の広がりや留意したい点などが多く出されました。今後のICTを有効に活用するための教具の在り方についてもヒントをいただきました。

そこで、今年度の研修教材として「道徳ラボ2020 道徳科授業における教具作成支援シート集」を多くの皆様のご支援やご協力をいただきながら作成することとしました。

道徳科でめざす授業は、解説の道徳科の目標にも記載されている「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習」です。そのような授業づくりで、自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりする活動の際に、視覚的に思考を助ける教具、比較しやすい支援となる教具を工夫していただきたいと思います。本シート集が、子どもたちの道徳性を養う道徳科授業づくりの一助となり、道徳ラボが道徳LOVEにつながることを願っています。

最後になりましたが、道徳ラボの開催、本シート集の作成・編集にあたり、多くの皆様にお世話になり、ここに深謝の意を表します。

目 次

多様に活用できる心情メータづくり.....	1
心のものさし（心のグラデーション、心のつなひき）	2
どこから見ても同じだね 心情円盤（心情円）づくり	3
心の色づくり	4
ロールプレイのための 何度も使える丈夫なお面づくり	5
多様に立場を選択できる円すい（三角）キャップ.....	6
個々の考えや理由を表現する 短冊カード.....	7
役割を視覚的に表示する役割カード.....	8
多様な支援として活用できる表情カード.....	9
自分の考えや立場を明確にする意思表示カード	10
胸ポケット入れ立場選択カード	11
学びを広げ深める付箋やカードの多様な活用.....	12
自己を見つめる振り返りに3色付箋の活用	13
環境づくりでの支援や工夫	15
心の状態を示すヒント～保健室よりのヒント～	16
印刷資料.....	17
校内研修や個人研修教材として作成してきたこれまでの道徳ラボ研修教材	19

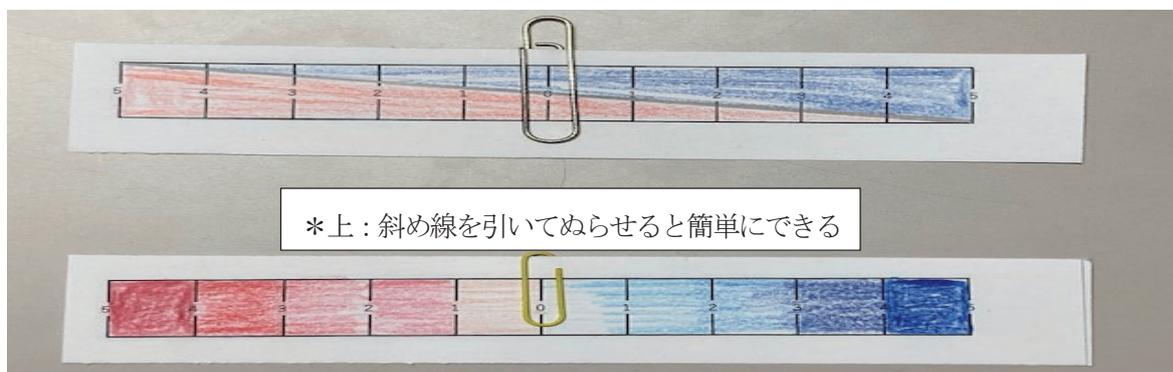
多様に活用できる心情メータづくり

主人公の心の迷いや葛藤を考える際に心情円盤以外にも、心情メータを活用して自分自身の感じ方や考え方を視覚的に表現する教具として用いられている。また、交流場面でも自分の表現した心情メータをもとに、互いに意見交換することも効果的である。

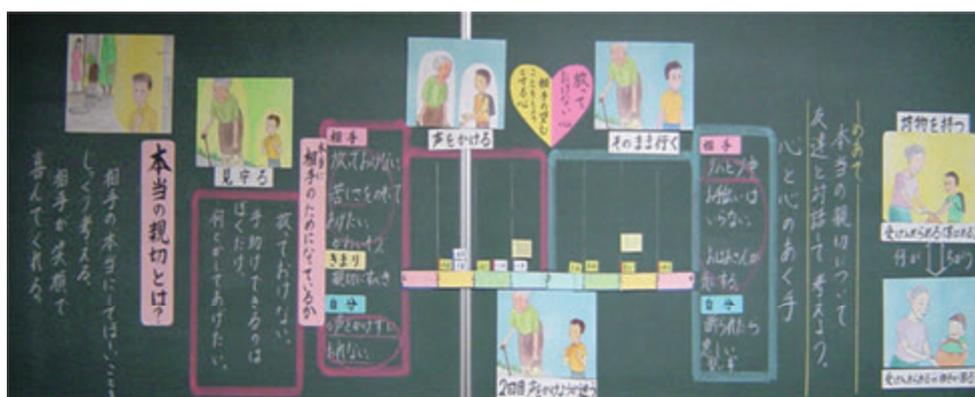


【福岡県の木下美紀先生手作りの道徳ラボ 2018 で紹介されたもの】

*両面にカラーで印刷しラミネートされている。



【枠だけ印刷して子どもに色をぬらせて作成】



「心と心のあく手」による心情メーターを活用した板書（木下美紀先生）



対話活動で
心情メータの活用

*黒板に名前磁石を位置付ける活動を中心発問の前後で行うような場合は、両面カラーマグネットを活用して考えが変容した場合は、マグネットを反転させて色を替えて表示させると分かりやすい。

参考：木下美紀（2020）「小学校第4学年での実践」植田和也他編『特別の教科道徳～授業力向上への一歩』美巧社 62-65 頁

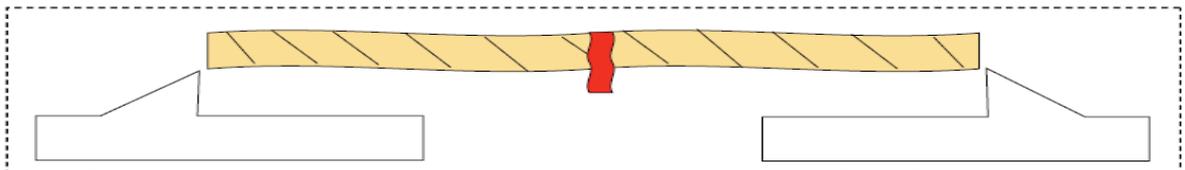
心のものさし（心のグラデーション、心のつなひき）

心の迷いや葛藤を示す教具には多様な物が見られる。例えば、グラデーションのように表示した物、つなひきのように表示した物、子どもたちの発達段階や使いやすさ等を考慮して作成してみたい。

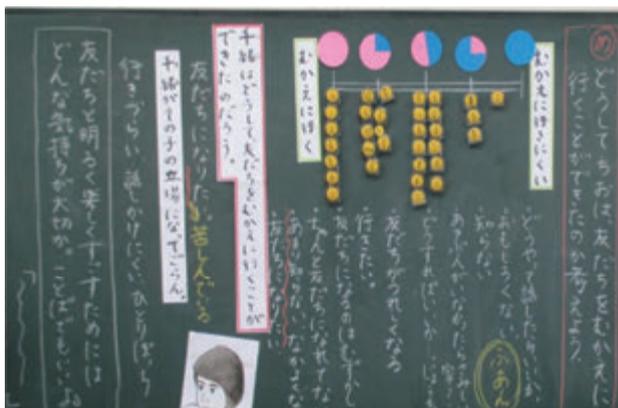


「ロレンツの友達」による心のグラデーションを活用した板書（山本健太先生）

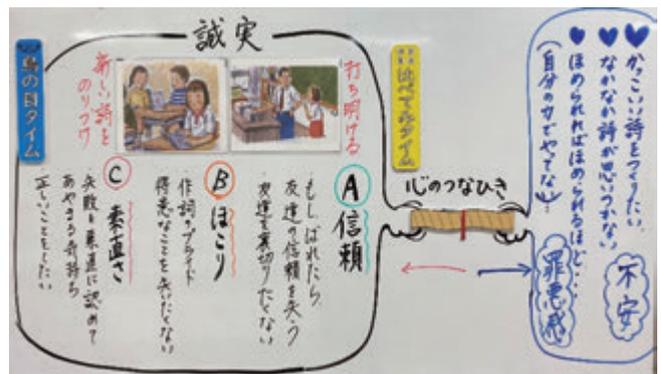
*本教材では3人の人物の色に焦点をあて、自分の考えは誰に近いのかをもとに位置付けて話し合いを実施。



「心のつなひき」両側に立場を書き込み、自分の考えを書き加えたりクリップや短い紐などを活用したりできる。



話し合いの際に、心情円盤をメータの目安に活用して、
名前磁石で個々の考えを位置付け（廣瀬美由紀先生）

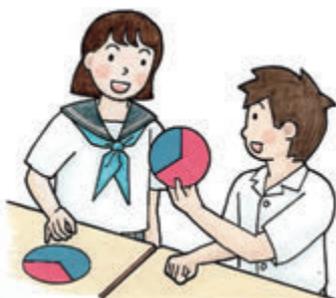


心のつなひきで多様な考えを整理して紹介
（山本健太先生）

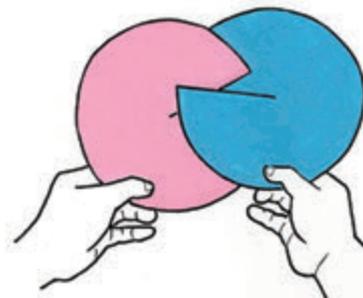
参考：木下美紀（2016）「話し合い活動」貝塚茂樹他編『道徳教育を学ぶための重要項目』教育出版、129頁

山本健太(2020)道徳ラボ 10月3日配布資料「問題意識を大切にされた道徳科のめあてづくり」

このような場面を見かけませんか？小学校のクラスで、個々が心情円盤で主人公の思いを表現している。一斉に先生の方に向けて見せているが、先生の方に示している赤青の割合と自分の方に見える割合が反対であるため、後ろ側の子どもからは勘違いして、「同じやねえ」と。また、本人自身も先生に見せる方と自分の表現したい色が逆になったり……。簡単なようですが、視覚的な情報による理解の誤認は様々な場で起きているかもしれませんね。このどこから見ても同じだね心情円盤づくりは、そのような子どもの表現への支援としたい思いから、高松大学の佐々木先生に道徳ラボ 2020 で作り方を含めて紹介してほしいと依頼したものです。子どもでも、分かりやすく指示すれば十分にできますので、ぜひ挑戦してみてください。（植田）



作り方



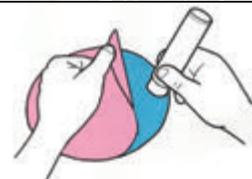
（左：熊野町立熊野第三小5学年での実践）

心情円盤は、二つの円盤のそれぞれに半径の切れ目を入れて組み合わせるとつくるができる。

円盤は、四つ切り色画用紙（54.5 cm×39.3 cm）から、直径18 cmの円盤だと、6個切り抜くことができる。

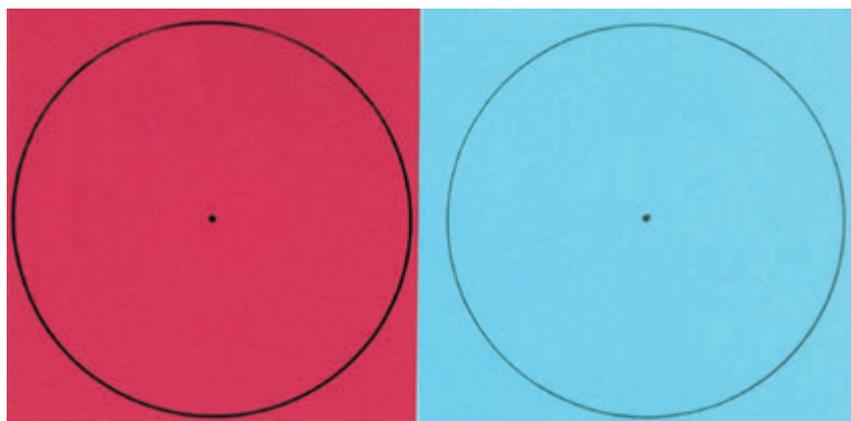
- 色画用紙でつくったピンクと青の円盤を2つ組み合わせると、裏表でピンクと青の割合が逆になる。そのため、ピンクと青の2枚を貼り合わせて1枚の円盤を作り、それを組み合わせると、どちらから見ても同じ割合となる。

（2枚を貼り合わせる時は、ずれ防止のため半分ずつ糊付けするとよい。）

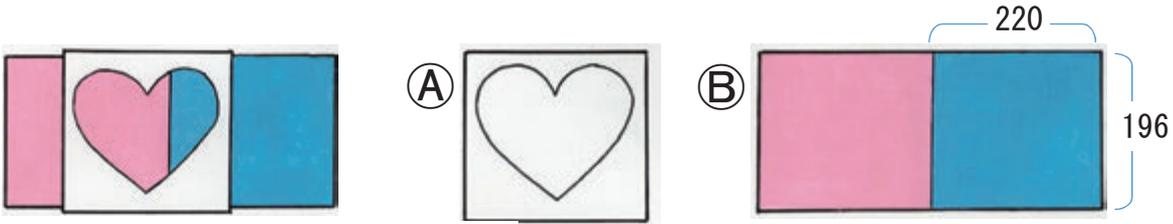


- 円形に切り抜く方法は、コンパスで円を描いてハサミで切り抜いてもよいが、円切りカッター（サークルカッター）を使うときれいに切れる。インターネットでも数種類の円切りカッターが紹介されている。子どもにハサミで切らせる場合は、下記のように画用紙に円と中心が分かるように印刷して配布してもよい。必要があれば半径も引いておこう。

※2色の組み合わせは、ピンクと青、赤と空色など、明度差がある方が分かりやすい。

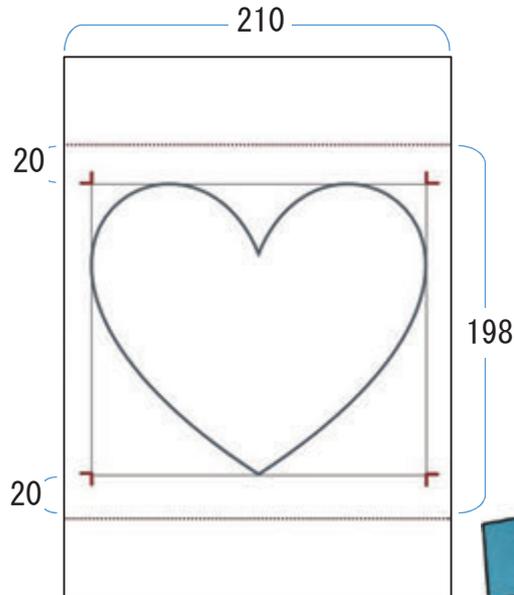


心の色づくり

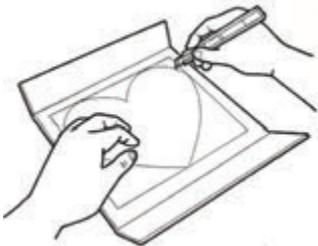


【ワードでの型紙 ①づくり】

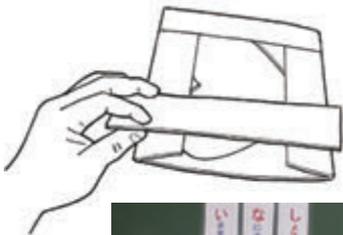
- ① マージン上下 70mm
左右 15mm に書式設定し、
に合わせて「図形（オートシェイプ）」で四角形を描き、その四角形いっぱいと同じく図形でハートを描く。
- ② プリンターで打ち出して、四角形の上下 2cm に横線を引く。
- ③ 厚手のケント紙に必要数を手差しコピーする。
- ④ ハートの部分をカッターナイフで切り抜く。



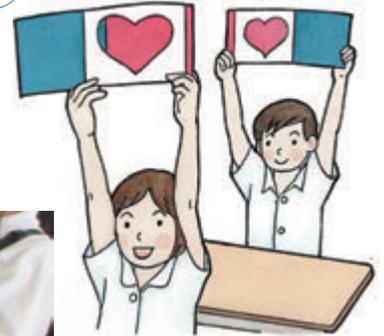
②は、四つ切り色画用紙（54.5 cm×39.3 cm）を縦横 2 等分に裁断し、ピンクと青を貼り合わせてつくる。



- ⑤ 点線で折り曲げて、裏面を補強する。



（尾道市立因北小学校での実践）



左：低学年で
個々に活用
下：中学年で黒
板に活用



心の色を活用した板書（原洋子先生）

ロールプレイのための 何度も使える丈夫な お面づくり



【顔となる部分】

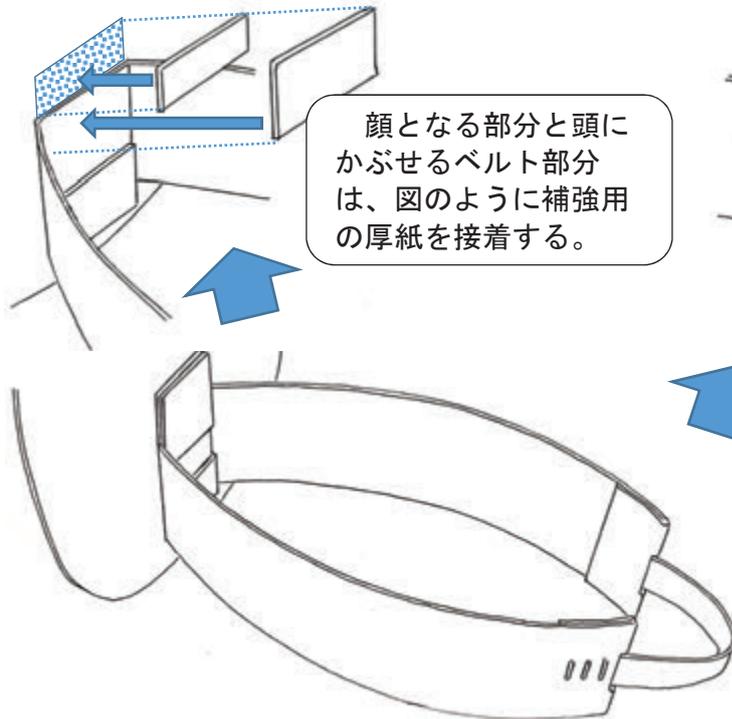
- ① お面の顔となる部分は、教科書等からスキャナーで複写し、A4用紙いっぱいの大きさに割り付け、プリントアウトする。
- ② プリントアウトした用紙を、厚紙（白ボール紙など）にスティックのりで貼り付け、周りを切り取る。



【頭にかぶせるベルト部分】（下図参照）

- ③ 厚紙とパジャマ用ゴム（幅 15mm）でつくる。
接着は、木工用ボンドを使う。

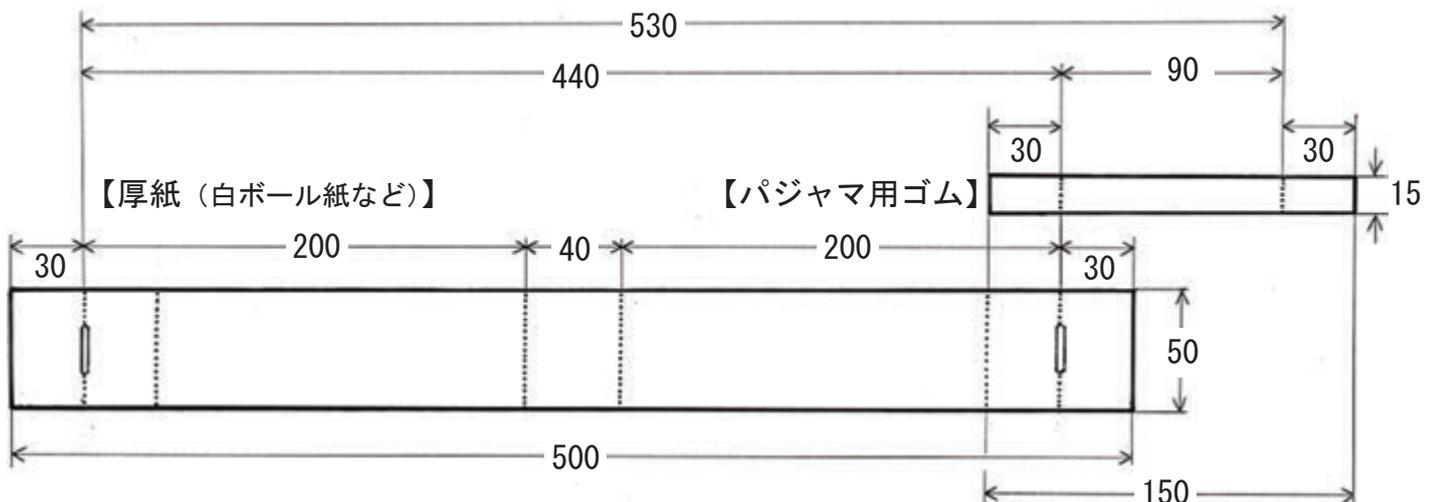
厚紙とパジャマゴムはホッチキスで止め、さらに厚紙を折って、ボンドで接着する



下図モデルのベルトの内径は、53 cmである。小学生の頭のサイズを、54 cmから58cm くらいと考えての設計である。

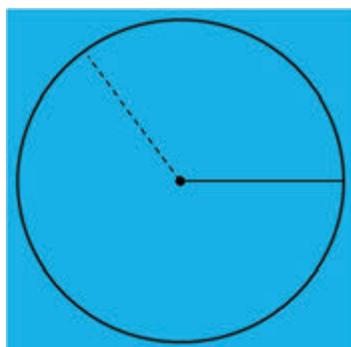
パジャマ用ゴムは輪ゴムに比べて伸縮性が大きい。

厚紙は、長さ 50 cm × 幅 5 cm、パジャマ用ゴムは、長さ 9 cm × 幅 1.5 cm に裁断する。
厚紙の長さが足りない場合は、継ぎ足してつくる。



多様に立場を選択できる円すい（三角）キャップ

最近では、心情円盤の活用を多く見かけるが、心情円盤が2つの立場を色の割合によって表示するのに対して、もともと選択する立場や人物が3つ以上の場合などに、この円すいキャップは3色や4色用意することができる利点がある。私自身は、昭和60年頃に附属高松小学校で七條正典先生が道徳の授業に円すいキャップや色付箋を活用して個々の考えの把握や変容に生かしている場面を印象的に覚えている。



自分の円すいキャップをつくろう

高学年や中学生なら、各色画用紙を渡して、コンパス等を活用して作成。その際に、半径と重ね合わせる角度を揃えておくことを確認。

低・中学年であれば、印刷した用紙を渡して、ハサミで切るところからでもよい。その際に、出来上がりのモデルを用意しておく。難しいのは重ね合わせた部分をとめる作業。両面テープを使用すると便利。ノリやボンドで接着する際には、洗濯ばさみで挟んでおきたい。

附属高松小学校の道徳などの授業で円すいキャップを活用していた七條正典先生談

昭和40～50年代にかけて全国的に反応分析としてのアナライザーが授業で活用されていた。また、他者の授業での色画用紙等での工夫をヒントに、縦長に切った色画用紙を胸にさすなど様々に試みた、その中で3色の円すい状の三角キャップがどこから見ても分かるし、容易に考えの変容も示すことができる利点があると考えて取り入れた。さらに、一瞬で全体の傾向を把握したり、個々の理由をより深く求めて意図的指名につながりすることにも効果的であると思われた。円すいキャップで立場や考えを選択して示し、色付箋で自分の考えや友達から学んだ考えを色別書き加えるなど、子どもの反応を効果的に把握することにアレンジして活用してほしい。

個々の考えや理由を表現する 短冊カード

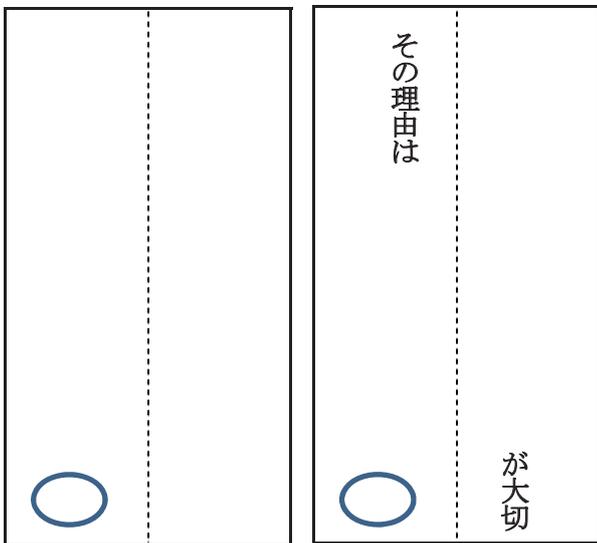
道徳科の授業でクラス全員の考えを取り上げることは、なかなか難しい面もある。そこで、短冊カードに個々の考えや理由をマジック等で表現して、全体が見えるようにすることは、その後の話し合いを深めるうえでも効果的である。少し厚手の用紙や画用紙を縦長に切るだけでもよい。時間があれば、裏に小さく切られているマグネットを貼っておくと便利である。その場合は、短冊カードに各自の名前を書くようにするとよい。



小学校での短冊カードを活用した実践
(高松市立太田南小学校)



立場として考えの近いところに理由を表示
鹿児島県の中学校での実践：展開 (植田実践)



本時の学びを生徒とともに短冊カードをなかま分け
福島県の中学校での実践：終末 (植田実践)

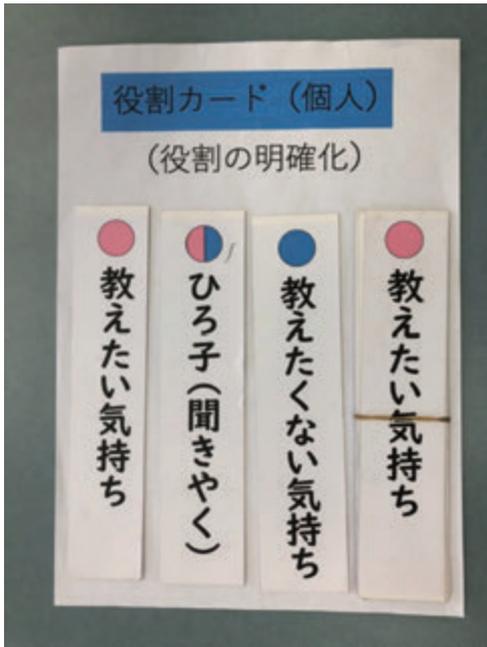
小学校で初めて活用する際には、2行程度で真ん中に点線をいれておくと書きやすい。左下に誰かわかるように名前かサインを書くように指示するとよい。必要があれば、立場や理由を記入する際の「・・・が大切」や「その理由は」などを事前に短冊カードに印刷しておくことも、書きにくい児童には支援となる。

参考：香川県小学校道徳教育研究会(1999) 「第3章 類型化による道徳学習の活性化」、『総合的学習と連携を図る道徳学習』—新教育課程の構想と実践—、明治図書

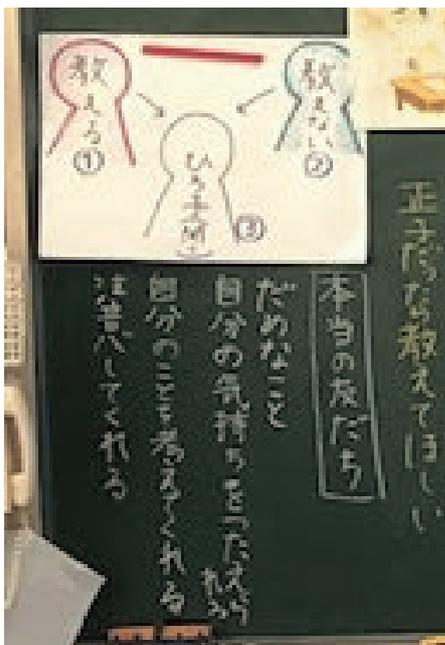
高松市立太田南小学校(2018) 第26回四国小・中学校道徳教育研究大会 (香川大会) 研究紀要、66頁

役割を視覚的に表示する役割カード

役割カードは、役割演技や立場を決めて話し合う際に、自分がどの立場や役割を選択して話したり演技をしたりしているのか、他者にも視覚的に理解できるようにする利点がある。特にグループで行う際には、第3者としての聞き役を設けることも効果的である。また、立場を交換して実施するなどの工夫も学年や教材に応じて取り入れていきたい。下記の役割カードは、道徳ラボ 2019 道徳研修 DVD 教材でも紹介したものである。



主人公の心の迷いや葛藤を3人組で、教えたい気持ち、教えたくない気持ち、聞き役になり、その気持ちや理由を聞き役のひろ子に向かって表現（廣瀬美由紀先生）



板書でも図で簡単に説明して実施



役割演技の際、簡易なもので役割を示す
中学校でも活用できる

多様な支援として活用できる表情カード

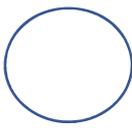
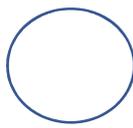
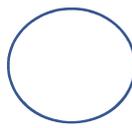
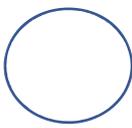
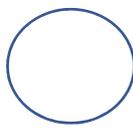
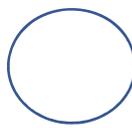
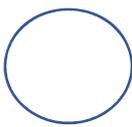
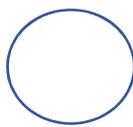
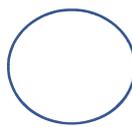
道徳科の授業では、主人公の気持ちや自分自身の感じ方を表現する場面がよくある。しかし、心の中に思っているうまく表現することができない子どもがどのクラスにもいるのではないだろうか。多様な支援が考えられるが下記のような顔の表情を絵で表現して示すことも実践で多く活用されている。下記のような表情カード（表情シンボル）を教師が教具として活用して個別に対話することも効果的である。また、ワークシートに描いておいた円の中に表情を書き入れる際の例を教室内に表示しておくことも考えられる。



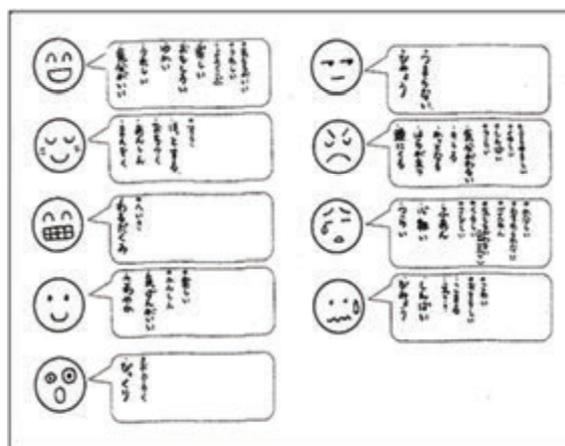
(宇多津町立宇多津北小学校での実践)



(廣瀬美由紀先生の実践)

		
うれしい		
		
かなしい		
		
イライラ		

左：児童に枠を与えて表情を書かせて、個々に持たせて活用することも考えられる。



【特別支援学級での表情カード例】

参考：山本木ノ実(2020)「特別な支援の必要な子どもへの配慮を生かした授業づくり」
植田和也他編『特別の教科道徳～授業力向上への一歩』美巧社 40-43 頁

自分の考えや立場を明確にする意思表示カード

道徳科の目標では、「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習」が求められている。そのためにも、まず大切なことが自分の考えをもつことである。

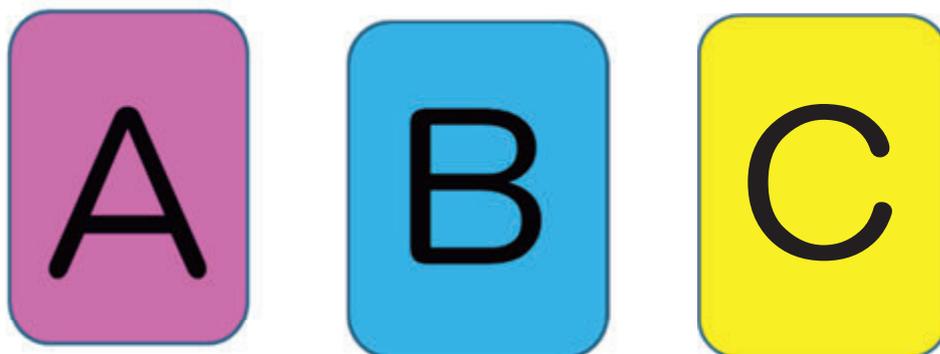
多様な考えのなかでも各自の考えや立場がどれに近いのか問うことや葛藤の場面等で選択を求めることもあるだろう。そのような際に、児童生徒が自分の考えや立場を明確にする意思表示カードは、多様な活用ができる。教材等に応じてアレンジして試みてほしい。

例 二択表示：「A、B」を用紙の両面に印刷して1枚で使用。

色画用紙で2色のカードを用意するだけでもよい。

三択表示：「1、2、3」「あ、い、う」「A、B、C」など色も変えて使用。

*角を少し丸める、ラミネートするなど、安全面や長期的な使用も考慮したい。



この意思表示カードは、自分の考えや立場を明確にして、その後の話し合いや交流に生かしていきたい。例えば、考えの違う人を瞬時に判断して、自由に話し合う時間を設定したり、同じ立場の人が集まって理由を学習用ボードに整理したりするなど多様な学習活動の支援としても活用できる。その際に、黒板に名前磁石等で各自が位置付けておくことも考えの変容などを示す際に効果的である。

*平成29年度や令和2年度の道徳ラボで坂井親治先生が実践での活用を紹介してください。道徳の授業だけでなく、全校朝会や様々な場でも多様に意思を視覚的に示すことで、他人事ではなく、自分のこととして考えようとする支援にも効果的である。

参考：坂井親治(2017) 道徳ラボ配布資料

胸ポケット入れ立場選択カード

交流場面で人物や立場を選択して記入した道徳ノートを持ち、互いに交換し読み合ったり語り合ったりする場面を見る。そのような際に、互いに選択した人物や立場が瞬時に視覚的に分かる工夫として胸ポケット入れ立場選択カードがある。アレンジして多様に活用できるので、学年や教材内容、目的に応じて交流が効果的になるように活用してほしい。

サバイユ	ニコライ	アンドレ

道子	幸平	まさる	たかし	かおり

言わない	迷い中	言う

自分へ 今後の	自分へ 現在の	自分へ 今までの

【使い方】 少し厚手の紙に印刷して、選択した部分が前側に見えるように折り曲げて胸ポケットにさす。

また、グループで立場を決めてロールプレイを行う際にも活用できる。

低学年などで初めて取り組む際には、モデルを示すなども有効である。また、同じ（違う）立場や人物を選択した人と交流など、目的に応じて条件を指定することも試みてほしい。

（右：竹森大介先生の実践）

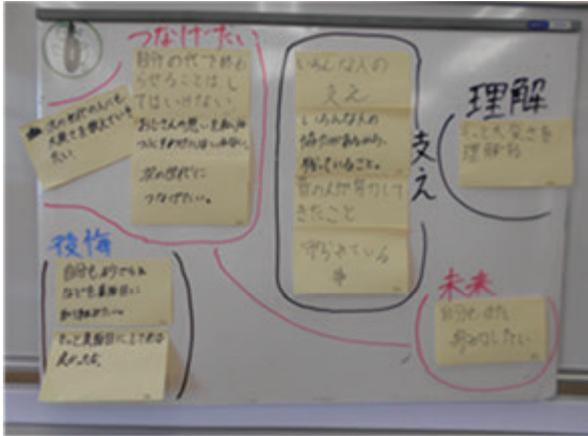


学びを広げ深める付箋やカードの多様な活用

道徳科の授業において、付箋の活用は多様である。よく見かけるのは、下記の点であろう。

- ① 個々の考えをもとにグループで話し合う際に活用
- ② 個々のノートやワークシートに友達の考えを付加する際に活用

それ以外にも、学んだ内容を付箋の色によって条件をかえて活用することも効果的である。ここでは、①のグループでの話し合いを付箋と学習用ボードで整理している活動（中学校）と個々が席を離れて友達のノートから学ぶ際に付箋を活用している活動（小学校）の写真を紹介する



中学校2年生「ふるさとの銭形砂絵」

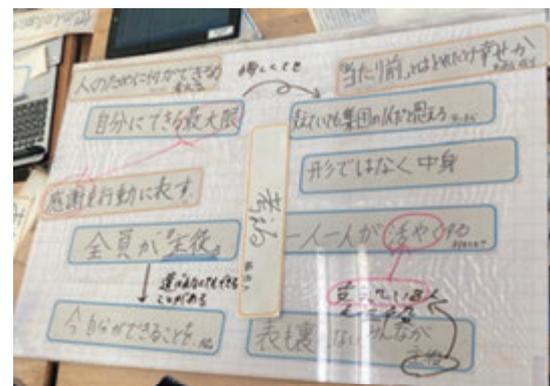
まず各自が付箋に自分の考えを記入。次に各班で話し合いながら仲間分け、全体での話し合い。

(三豊市立詫間中学校での実践)



小学校3年生（太田盛子先生）

自分のノートに考えを記入し、限られた時間内で友達の考えを確認。なるほどと感じた考え等を付箋にメモ。ノートに貼り付け自分の考えを再考。

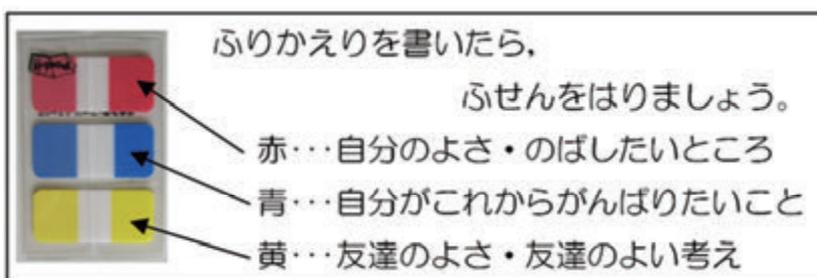


小学校6年生（篠原弘樹先生）

カードに短く表現したキーワードや大切だと思った言葉を記入し、学習用ボードに話し合いながら関係性を整理し、学びを深める。

自己を見つめる振り返りに 3 色付箋の活用

道徳科の授業では、道徳ノートに振り返りを書くことで、自己の考えの変容や深まりに気付くことができる。しかし、「何をどのように書けばよいのか分からない」「授業の感想文になってしまい、自己の考えの深まりに気付けない」といった課題もあるだろう。例えば下記のような振り返りの観点を示すことが効果的である。



【道徳ノートへの記述】

- ・上の説明の紙と付箋を、道徳ノートの裏表紙に貼り付けておき、自分で観点を選択して付箋を道徳ノートの端に貼り、振り返りを記述する。いくつ選択してもかまわない。
- ・この視点以外も認め、振り返りの観点が子どもの中に増えていくことを目指す。
- ・記録を蓄積することで、長期的な振り返りや評価に生かすことができる。

学年に応じた振り返りの観点は様々であり、子どもたちと共に振り返りの観点をつくっていくのもよい。付箋でなくても、例えば、下のような振り返りの観点を黒板に示して、色シールを貼らせたり、色鉛筆で丸を付けさせたり、記号で書かせたりしてもよい。

● 友だちの考えとくらべて考えたことや、友だちの考えのよいところ

● 「自分だったら・・・」「自分はこれから・・・しよう」と考えたこと

● ()

① 友だちの考えとくらべて考えたことや、友だちの考えのよいところ

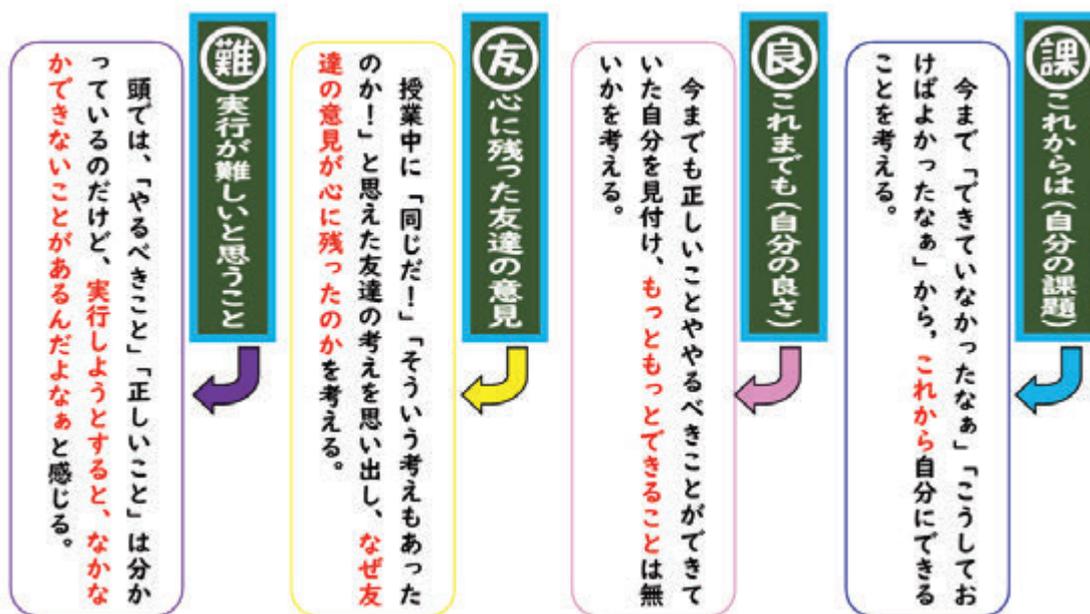
① 「自分だったら・・・」「自分はこれから・・・しよう」と考えたこと

① ()

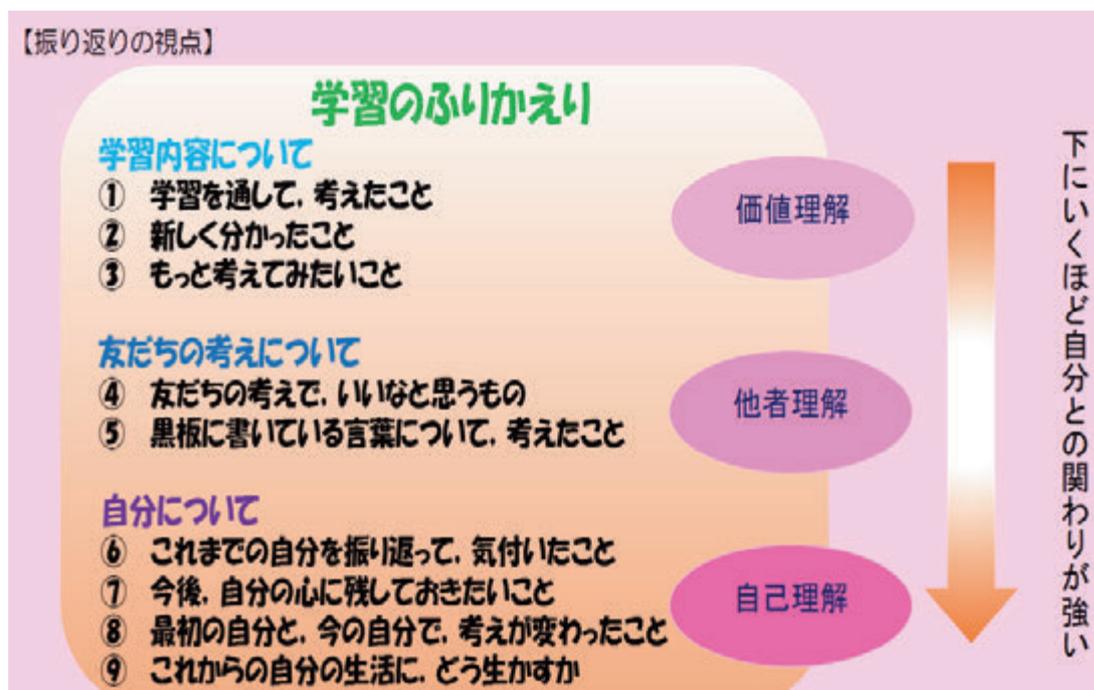
参考：清水顕人(2020)「振り返り場面における 3 色付箋を用いた道徳ノートの活用に関する一考察」『道徳性発達研究 13 巻 1 号』日本道徳性発達実践学会 28-34 頁

資料： 児童生徒に視覚的に示す多様な振り返りの手がかり

児童生徒の実態や学年に応じて、手がかりとなる内容をヒントに示して選択することも効果的なので、アレンジしながら取り組んでみたい。



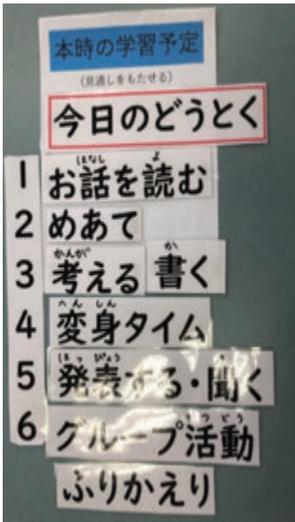
道徳ラボで紹介された「振り返りで自分の生き方を問う4観点」(山本健太先生)



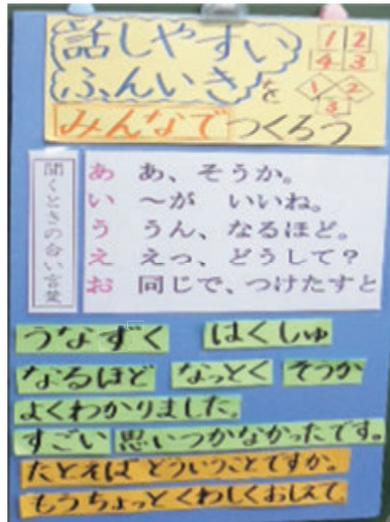
教室にも掲示されている振り返りの視点 (熊野町立熊野第三小学校)

環境づくりでの支援や工夫

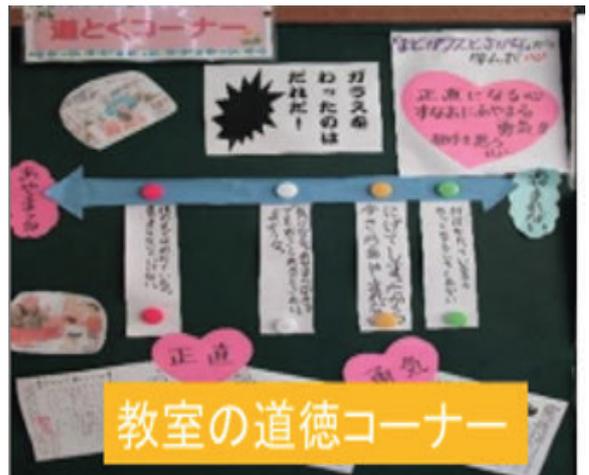
学習の見通しを視覚化するだけで、今は何をしているのかや学習の流れをつかめるなど、ちょっとした支援につながる。また、学習後に背面黒板等を利用して授業で活用した教具を用いて掲示を工夫することで意識の継続や道徳科での学びを日常生活に生かしていこうとする架け橋としての役割を果たすこともできる。



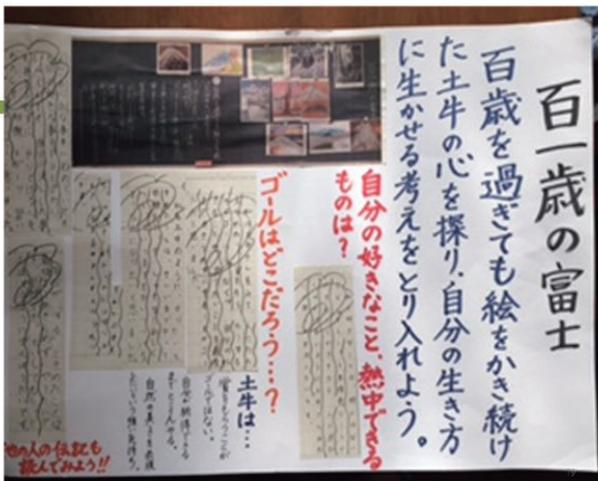
学習の見通しを視覚化
(廣瀬美由紀先生)



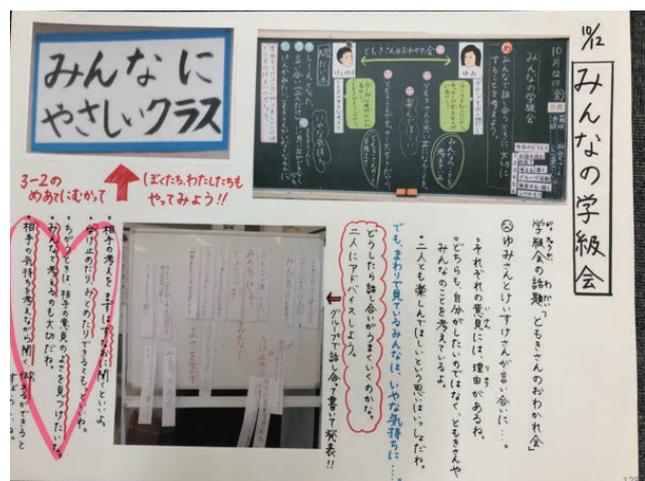
言語活動の支援を視覚的に掲示
(原洋子先生)



授業で活用の教具を用いて背面黒板の工夫
(高松市立太田南小学校)



学習後に個々の学びを確認できる掲示
板書と終末の表現をあわせて紹介 (阿見陽子先生)



学習後に学びの流れを想起できる掲示
板書と学習の流れをあわせて紹介 (廣瀬美由紀先生)

参考：高松市立太田南小学校(2018) 第26回四国小・中学校道徳教育研究大会 (香川大会) 研究紀要、35頁

心の状態を示すヒント～保健室よりのヒント～

保健室には子どもの心の状態を表現する様々なグッズやヒントがある。下記に示すのは、実際に活用されているもので、道徳科においてもアレンジできそうなものである。スタンプも100円均一の材料と消しゴムによる手作りである。



【心のめもり】

針を自分で動かせる



【気持ちスタンプ】

自分で選択して伝える



【心の温度計】

道徳科の教科書には、怒りの温度計などもある。



【痛みのものさし】

(磁石でけがをした時と今の状態を表示)



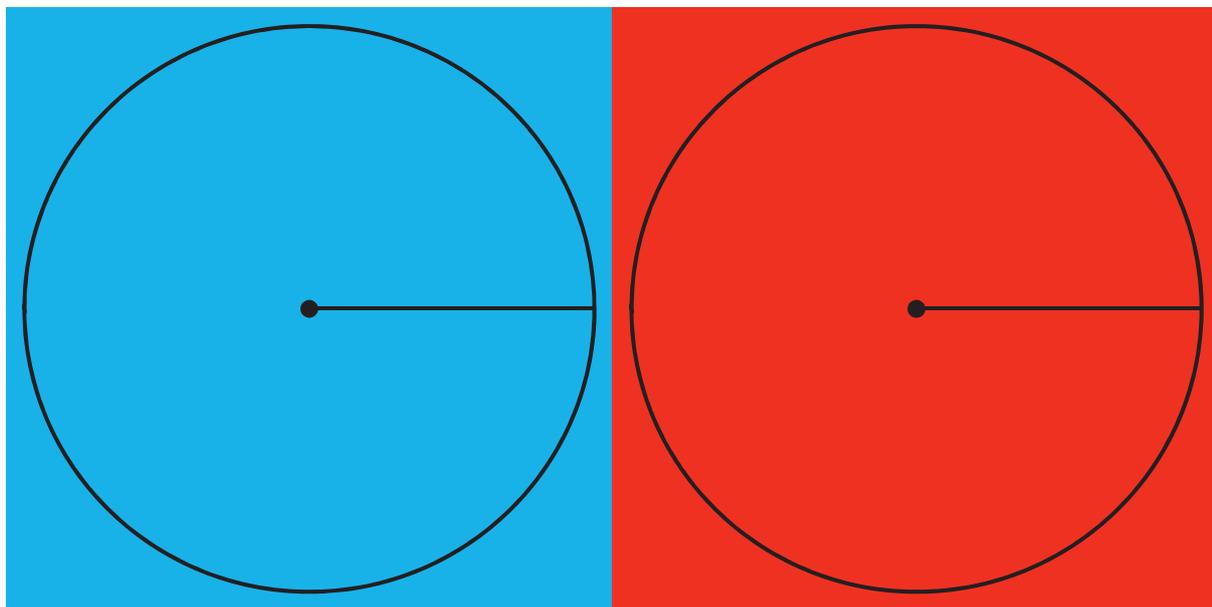
【心の天気は?】

(心の状態を天気にならべて表示)

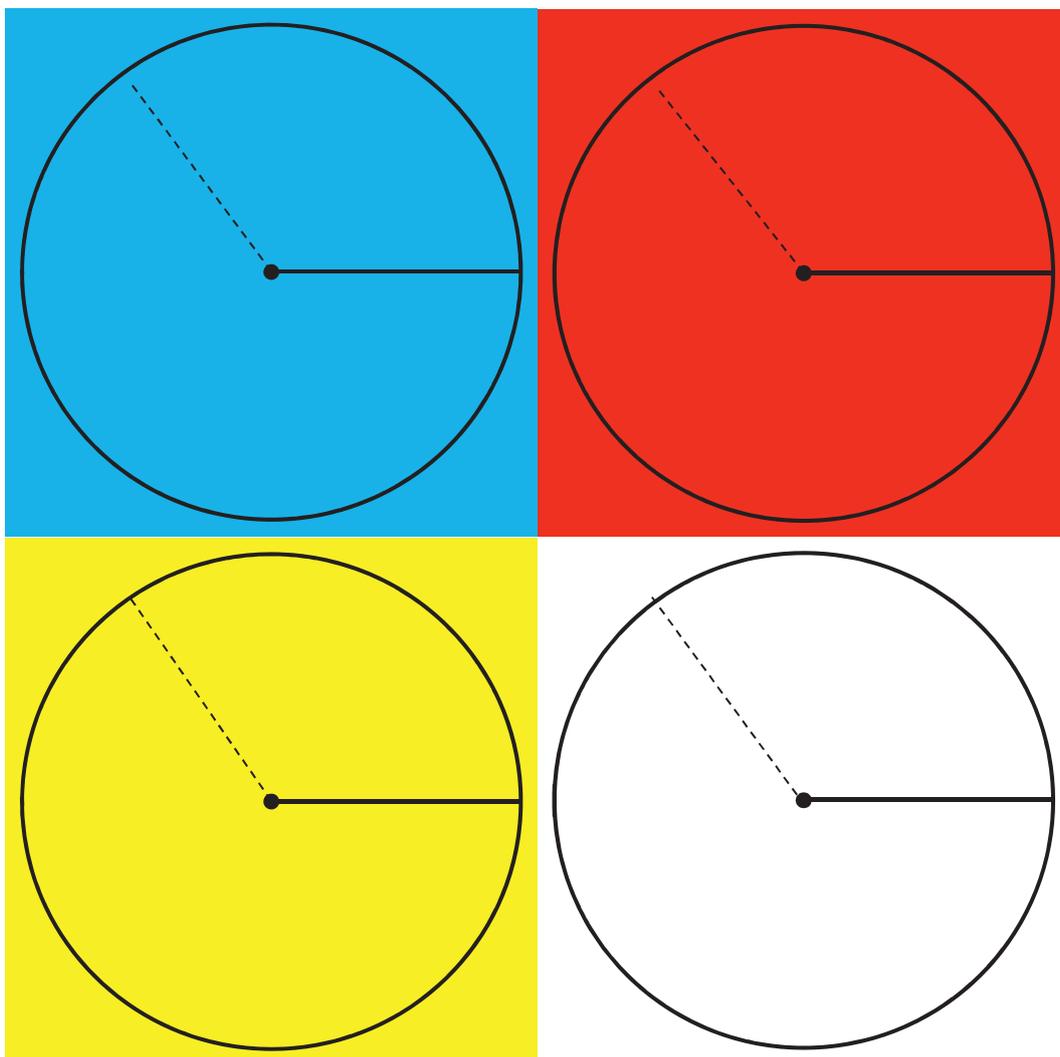
参考：宮地紘子(2021)「心身ともに健やかな子どもを育む相談活動」香川大学教育学部附属高松小学校研究紀要 2020、134-135 頁

印刷用資料

心情円盤（心情円）

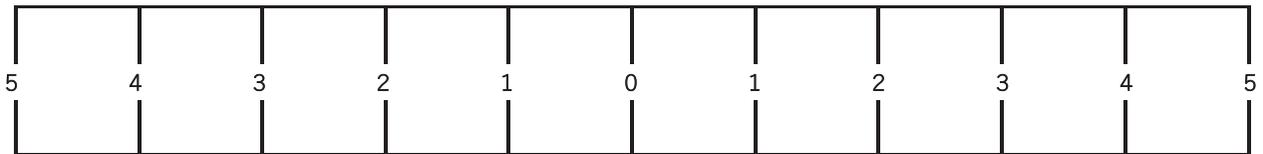
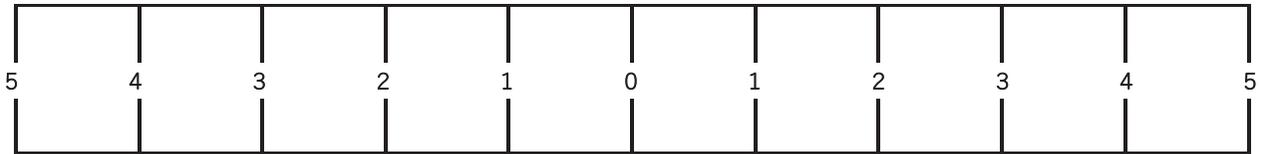
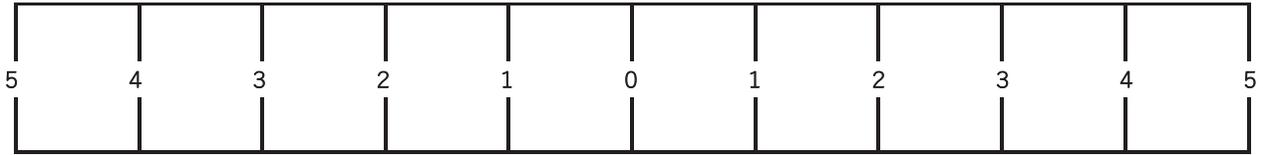
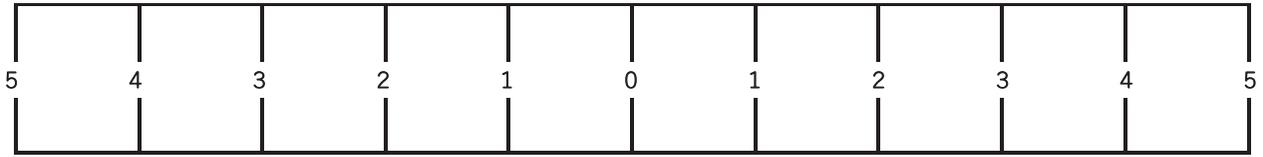


三角キャップ

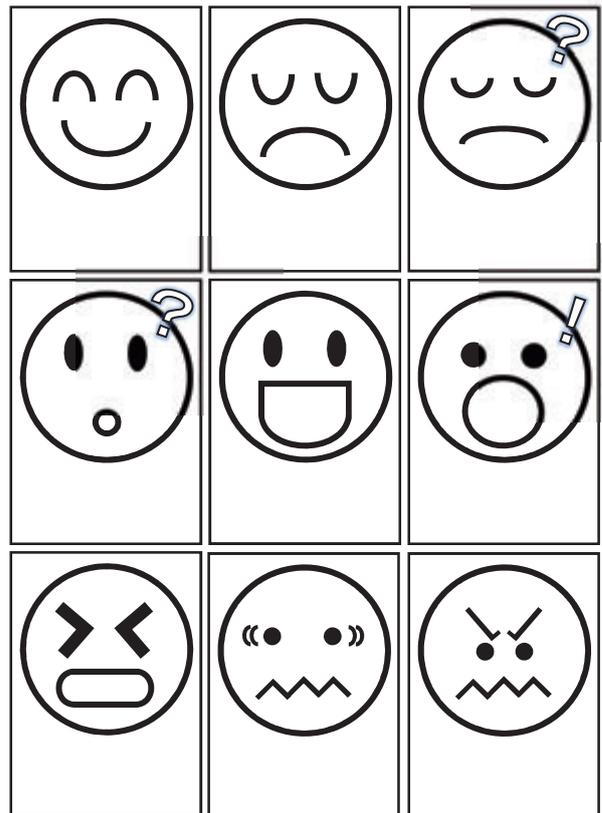
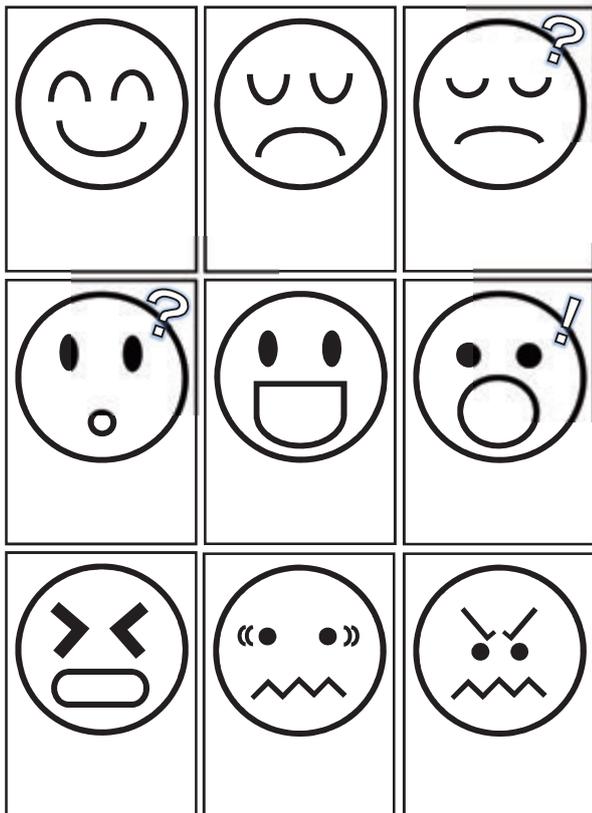


印刷用資料

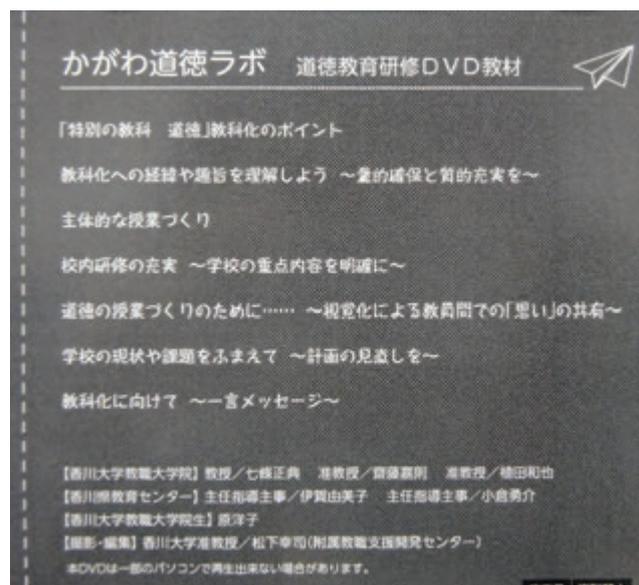
心情メーター



表情カード



校内研修や個人研修教材として作成してきたこれまでの道徳ラボ研修教材



平成 28 年度研修教材【「かがわ道徳ラボ」道徳教育研修DVD教材】

かがわ道徳ラボQ&A 目次

- 1 なぜ、道徳が教科になるのですか？何が変わるのですか？
- 2 学校として、35 時間の量的確保を教員が意識するための具体的な手立てはありませんか？
- 3 道徳科の実施にあたり、管理職はどのようなことに留意すればよいのですか？
- 4 道徳教育推進教師が、特に意識しなければならないことは何ですか？
- 5 道徳科の指導方法では、特に何を意識すればよいのですか？
- 6 道徳科での問題解決的な学習で気をつけたいことは何ですか？
- 7 複数の価値が対立したり、結末が描かれていないオープンエンドの教材を扱ったりする際の指導では、どのような配慮や支援が大切ですか？
- 8 道徳の教科化について、保護者への説明や情報発信はどうすればよいのですか？
- 9 年間指導計画や別葉の作成において、どのように作業を進めればよいのですか？
- 10 発達障害等の配慮を必要とする子どもたちにどのような支援を大切にすればよいのですか？
- 11 道徳教育を柱として、幼小連携を推進したいのですが、何から取り組めばよいのですか？
- 12 道徳科の評価を行う際のポイントや評価の記載はどのように進めていけばよいのですか？
- 13 道徳科の研修が必要であると思うが、教員の研修の必要性や大切さを共通理解する際に知っておけばよいことは何ですか？
- 14 道徳科に関する効果的な校内研修の工夫として何かヒントはありませんか？
- 15 完全実施直前に校内研修等で、共通理解を図るためにも確認しておくべき資料や文章等は何ですか？
- 16 道徳科になり、教科書が使用されますが、今までの郷土資料や学校で開発した教材等は使えますか？
- 17 県教育委員会が作成してきた郷土資料や道徳関係の資料等には、どのようなものがありますか？
- 18 道徳科に関することで質問や相談を大学や教育センターにすることは可能ですか？
- 19 道徳科の授業や校内研修等でタブレットの活用でどのようなことができますか？
- 20 教科化を機に、教員自身の倫理観やモラルの向上を高める何かヒントはありませんか？

平成 29 年度研修教材【かがわ道徳ラボQ&A】 Q 1 から Q 2 0 まで、道徳の教科化や道徳科の授業づくりに関わる悩みや課題と思われる内容を Q & A の形で掲載 全 50 頁





四国道徳ラボ道徳研修DVD教材
質の高い道徳科の授業づくりをめざして

1. 挨拶・説明
2. 道徳科の授業における課題
3. 授業づくりⅠ基礎編
4. 教材分析のポイント
5. 発問づくりについて
6. 多様な指導方法について
7. 道徳科の評価について
8. 配慮の必要な子どもへの支援、指導
9. 授業づくりⅡチャレンジ編
 - 9-1 情報モラルの授業について
 - 9-2 役割演技について
 - 9-3 道徳ノートの工夫
10. インタビュー編
 「質の高い授業づくりのために大切にしてほしいこと」
11. 子どもが主体的に学ぶ道徳科の授業づくりをめざして
12. 管理職の皆様へ
13. まとめ

メインメニューへ戻る

平成30年度研修教材【四国道徳ラボ道徳研修DVD教材質の高い道徳科の授業づくりをめざして】

目次

- 1 道徳科の授業での課題を互いに確認
- 2 教材を読みこみ中心発問と児童生徒の反応の予想
- 3 実践書きこみ用 中心発問と児童生徒の反応の予想
- 4 若年研修用 中心発問と児童生徒の反応の予想
- 5 授業後の協議用 発問について ふり返ろう
- 6 板書を想定して授業構想
- 7 板書写真から授業について ふり返ろう
- 8 実践書き込み用 板書写真から授業について ふり返ろう
- 9 道徳科の評価文作成の前に①：できることの3段階
- 10 道徳科の評価文作成の前に②
 - 道徳 校内研修用資料（評価のポイント）小学校
 - 道徳 校内研修用資料（評価のポイント）中学校
- 11 授業後の意識の継続を図る背面掲示の作成
- 12 道徳科の多様な導入
- 13 若年教員の研修 ～中心発問について～
- 14 道徳科の授業における発問
- 15 道徳ノートやワークシートを活用した見取り
- 16 中心発問から板書構想
- 17 多面的・多角的に考えるための活動や思考ツールの有効な活用
- 18 道徳科の計画から実践への見える化づくり
- 19 道徳科の年間指導計画の見直しと実践計画
- 20 地域教材と教科書教材の検討

校内研修や個人研修教材として作成してきたこれまでの道徳ラボ研修教材

令和元年度研修教材【道徳ラボー校内研修の充実—30分で挑戦！演習用シート教材集】

「令和元年度教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業」
 独立行政法人 教職員支援機構委託事業

教科化対応ラボによる教員の資質向上
 ～英語ラボ・道徳ラボ研修会を通して指導と評価の一体化～

道徳ラボー校内研修の充実—
30分で挑戦！演習用シート教材集

香川大学教職大学院 香川県教育センター
 令和2年3月

あ と が き

2021年1月に出された中教審答申では、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成すること」を学校教育に求めています。本冊子を手にとって下さった皆様は、この文章から道徳科の目標を思い起こしたのではないのでしょうか。特別の教科となった道徳科の果たすべき役割は、さらに重要となっていると言えるでしょう。

道徳科の授業では、子どもたちは見えない心の中を交流します。互いの思いの違いや、揺れ動く葛藤を、教具を用いて表現できることは、すべての子どもたちの学びを豊かにしてくれます。今回、これまでに道徳ラボ等を通して、実践での活用を紹介いただいた数々の教具を、多くの先生方に、学校現場で手軽に準備して使っていただけるようにまとめました。これらの教具やちょっとしたアイデア、ノートづくりのヒント等を、日々の道徳科の授業で役立てていただけることを願っています。最後になりましたが、四国地域教職アライアンス香川大学センター主催の道徳ラボにご協力いただきました講師の皆様、関係機関並びに参加いただきました皆様に心から御礼を申し上げます。

清水 顕人 植田 和也



手作り教具（佐々木啓祐氏の手書きによる作成物）

本冊子のお面、心情円盤、心の色等の作製図やお面のイラストは全て佐々木啓祐氏の手書きです。また、印刷資料として作製した頁も掲載していますのでご活用ください。

なお、平成28年度～令和元年度の作成教材は若干残っています。また、個人・校内研修等に活用したい方は貸し出し等も可能ですので、編集事務局まで問い合わせください。

執筆・作成者

植田 和也（香川大学教職大学院） 1－3、6－12、14－16、19、20
清水 顕人（香川大学教職大学院） 2、11、13、14、17、18
七條 正典（高松大学発達科学部） 6、19、20
佐々木啓祐（高松大学発達科学部） 表紙絵、3－5

写真のご協力をいただいた皆様（五十音順、敬称略）

阿見陽子（実践当時：高松市立仏生山小学校）
太田盛子（実践当時：高松市立塩江小学校）
木下美紀（福岡県、宗像市立大島学園）
坂本真奈美（熊野町立熊野第三小学校）
桑田修幸（実践当時：三豊市立詫間中学校）
篠原弘樹（高松市立亀阜小学校）
竹森大介（附属坂出小学校）
中橋裕乃（熊野町立熊野第三小学校）
原洋子（玉野市立荘内小学校）
廣瀬美由紀（高松市立川島小学校）
宮地紘子（附属高松小学校）
山本健太（附属坂出小学校）
宇多津町立宇多津北小学校
尾道市立因北小学校
熊野町立熊野第三小学校
高松市立太田南小学校
三豊市立詫間中学校

「独立行政法人教職員支援機構連携教職大学院を対象とする地域センター支援事業」

道徳ラボ2020

道徳科授業における教具作成支援シート集

四国地域教職アライアンス香川大学センター 香川大学教職大学院
令和3年3月

国立大学法人 香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）
〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

編集事務局：植田和也研究室 TEL 087-832-1509（FAX兼）